

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：永島・奈良井]  
TEL：0853-22-6772  
FAX：0853-24-3342

平成30年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号（新病害発生情報）

平成30年8月10日  
島根県病害虫防除所

トルコギキョウ斑点病の本県での発生が確認されたので特殊報を発表します。

【概況】

平成30年6月、県東部、県西部のそれぞれ1か所の施設栽培のトルコギキョウにおいて、下位葉～中位葉にかけて黒～灰褐色のすす状の病斑を示す株が確認された（写真1、2）。症状からトルコギキョウ斑点病の疑いがあったため、農林水産省神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、*Pseudocercospora nepheloides*によるトルコギキョウ斑点病であることが判明した。

同様の症状は、平成27年11月に県西部の1か所で発生を確認したが、収穫期の発生で被害程度は軽微であった。国内における本病害の発生は、平成20年に福岡県で初めて確認され、その後、平成29年に高知県、大分県、熊本県、宮崎県、長崎県、平成30年に和歌山県、沖縄県、広島県、福島県で報告されている。

- 1 病害虫名 トルコギキョウ斑点病  
2 病原名 *Pseudocercospora nepheloides* (= *P. eustomatis*)  
3 作物名 トルコギキョウ  
4 発生場所 県東部・西部  
5 症状

初め、葉に5～10mmの退緑斑を生じ、その後、黒～灰褐色のすす状の病斑となる（写真1、2）。病斑上には、小黑点（分生子座）が多数形成（写真3）され、顕微鏡で観察すると分生子の形成（写真4）が確認される。病斑は下位葉を中心に発生（写真1）し、その後、上位葉へと伸展する。



写真1 ほ場での発生状況

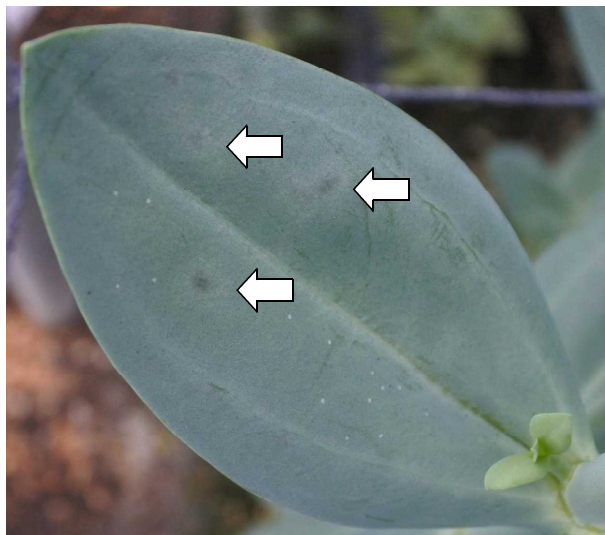


写真2 初期症状（退緑斑にすす状の病斑が薄らとみえる）

## 6 発生生態

- 1) 本病の発生生態についての詳細は不明であるが、発病葉に形成された分生子により伝染すると考えられる。
- 2) 感染から2～4週間で発病すると推察される。
- 3) 夏期の高温期を除き、春から秋まで多湿条件下で多発する。



写真3 病斑の拡大（分生子座）

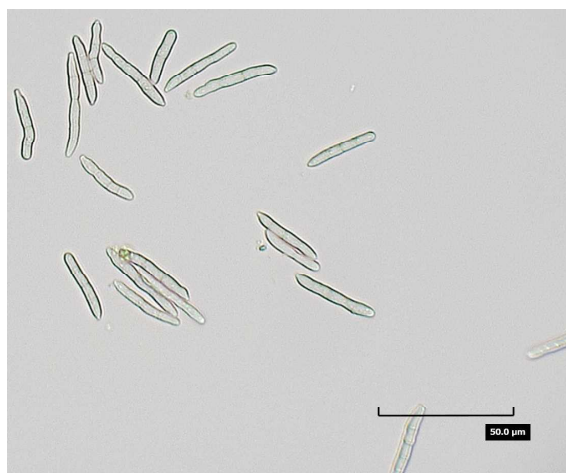


写真4 分生子

## 7 防除対策

- 1) 多湿条件で発生が助長されるため、施設内の換気に努める。
- 2) 罹病株の残渣は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。
- 3) 薬剤による防除は、発生してからでは手遅れになることもあるため（感染から2～4週間で発病すると推察される）、発生前から10～14日間隔で行う（表1）。ただし、薬剤の汚れが発生するため、使用時期には注意する。
- 4) 発生を認めた場合は、発病葉を除去してから薬剤防除を行う。
- 5) 2度切り栽培において、前年に発病した場合には、多発生することが懸念されるため特に注意する。

表1 斑点病（花き類・観葉植物）に登録のある薬剤（平成30年7月末現在）

農薬名	使用時期	希釈倍率	使用回数	使用方法
ダコニール1000	—	1000倍	6回以内	散布

## 8 その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所（農業技術センター 病虫科：0853-22-6772）に連絡する。